



# 図書だより 3月号

龍北図書室キャラクター  
ほんちょう

兵庫県立龍野北高等学校図書委員会

## 図書室の利用について

### 【開室時間】★短縮時間割時★

- 平日…放課後 12時50分～14時00分  
必要があれば上記以外の時間も開けます。
- 1人3冊まで借りることができます。
- 貸出期間は2週間です。

### 【返却】

- 1人3冊まで借りることができます。
- 本の返却時には、図書室のカウンターへ持ってきてください。
- 図書室が開いていない時は、下記の通り

図書室が開いていない時は、図書室東の壁にある返却ポストに入れてください。



## 3月中旬～4月初の予定

3月15日(金)、18日(月)～20日(水)、22日(金)は開室  
 3月25日(月)～4月7日(日)春休み閉室  
 4月8日(月)始業式…閉室  
 4月9日(火)課題考査・対面式…13時半～14時まで開室  
 それ以外は、平常通り開室します。



## 図書委員のイチオシの本紹介

### 『神様の御用人』 浅葉 なつ



膝を壊し野球の道を諦め、就職先すら失った主人公良彦に狐神黄金から突如「神様の御用人」というパシリに近いものを命じられ、人間ではなく、神様の願いを聞いていくことに…。この物語に出てくる神様たちは実際ある古事記や民謡等に名のある神様が多く出てきて、面白おかしく、時には泣きながら神様の歴史を知れる物語です。

人間の様に悩む神様達に親近感すら感じられ、すらすら読めるとても面白い作品なので、是非読んでみてください。

【図書所在番号 913-A】

1年6組 福田 愛



### 『キノの旅』 時雨沢恵一



旅人のキノが相棒でしゃべるバイクのエルメスと旅をしながら様々な国を巡るという短編で1話完結型のファンタジー。

キノとエルメス以外にも、「師匠と相棒」、「シズと陸」「フォトとそう」が主人公になる話もあります。短編ごとにシリアスなバトルに重点をおいたり、コミカルを全面に出したりしていますが、全編に共通しているのは、ユーモアを漂わせている点と、寓意的な雰囲気を感じさせるところです。

このような形態のため、簡単なストーリー紹介というわけにはいきませんが、気軽に読める楽しい作品です。面白いのでぜひ読んでみてください。

【図書所在番号 913-シー1】

1年4組 釜井 綾大

## 新着図書の紹介

先月号に続いて、新着図書を紹介します。他にも多数ありますので、ぜひ図書室に来て読んでみてください。



**『はたらく細胞』 清水 茜**  
ここはとある「人」の体内。その中では数十兆個もの細胞が年中無休で働いている。赤血球は酸素を身体中に運び、免疫細胞たちは細菌やウイルスなどの身体を脅かす異常と戦い、その他の細胞も自分たちの働きを全うしている。小さなことから大きなことまで様々な騒動が起こる身体の中で、新米の赤血球「AE3803」や白血球「U-1146」などを中心に、そんな細胞たちの日常を描く。  
人間の体内にある細胞（主に免疫系の諸細胞が中心）を擬人化した話題の作品が龍北の図書室に登場。



**『跳びはねる思考 会話のできない自閉症の僕が考えていること』 東田 直樹**  
僕は、二十二歳の自閉症者です。人と会話することができません。僕の口から出る言葉は、奇声や雄叫び、意味のないひとりごとです。普段しているこだわり行動や跳びはねる姿からは、僕がこんな文章を書くとは、誰にも想像できないでしょう。——（本文より）会話ができないもどかしさ、意に沿わない行動をする身体を抱え、だからこそ、一語一語を大切に発してきた重度自閉症の作家・東田直樹。小学生の頃から絵本やエッセイなど、多くの作品を執筆してきた彼が「ひとりの22歳の人間」として書いた、鋭く、清冽な、驚異のエッセイ。



**『アスリートのためのスポーツ栄養学』 柳沢 香絵監修**  
ジュニアから成人・シニアまで。スポーツ愛好者からトップアスリートまで。パフォーマンス向上に欠かせないスポーツ栄養学の知識が詰まった1冊！  
ジュニアから成人まで。アスリートが強い体を作り、試合に勝つための食事方法を紹介。アスリートの栄養の基本、「強い体」を作る食事の基礎計画、試合に向けた食事計画、競技力向上のための食事計画、強くなる！ 目的別食事計画、体をつくる食品の栄養事典などスポーツ関係者に必読の書。



**『おばあちゃんが、ぼけた。』 村瀬 孝生**  
筆者が、特別養護老人ホームと在宅所で働く中で見てきた、さまざまな出来事や老人たちの姿を描く。所々に出てくる、「ぼけた」老人と暮らす中から編み出した筆者の“知恵”は、“机上の知識”とは違って、役に立つとともに読み物としても本当に面白い。  
筆者が接してきた多くの認知症の老人たち。誰もが悪気なく周囲の人々を困らせるなかで、いつしか「介護を受ける人中心」から、「介護をする人中心」となってしまった現状を面白おかしく描いている。福祉関係の人や家に高齢者がいる人にはお薦めの一冊。

